

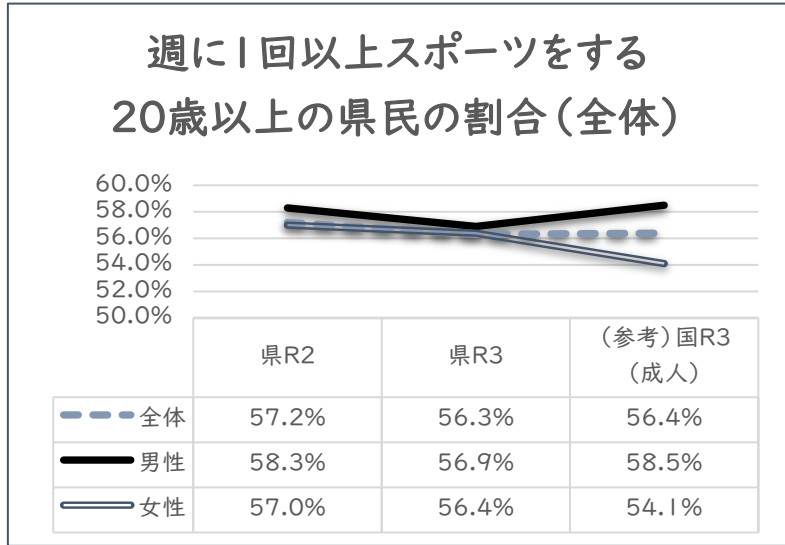
埼玉県スポーツ推進審議会（令和4年3月28日開催）における審議会委員御意見への対応（案）

資料2

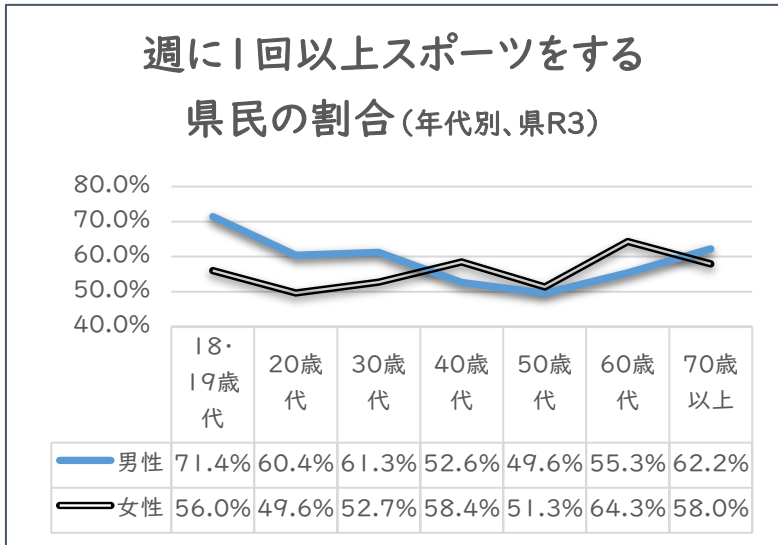
No.	該当箇所	御意見（概要）	対応(案)	委員
1	基本理念	<ul style="list-style-type: none"> ・他の基本理念（案）があれば、検討する余地がある。 ・「魅力あふれる」という言葉に抵抗がある。 ・県5か年計画【針路8：支え合い魅力あふれる地域社会の構築】と言葉を合わせることは、一貫性がある。 ・「人」個人にターゲットが向かないような基本理念が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の施策、体系、取組の詳細審議（令和4年8～10月予定）の進展を踏まえ、改めて、委員の皆様から御意見を頂戴し、御審議いただく。 ・「個人」の問題に帰結しないよう、県全体、県民全体が共有できるような基本理念とする。 	有川委員 関根委員 増野委員 宮寺委員 工藤委員
2	目標1 指標2	<ul style="list-style-type: none"> ・【指標2】「スポーツ観戦機会」について、調査・研究などでは、「直接スポーツ観戦率」「実観戦率」という言葉を使用する。ここでは「機会」ではなく、「率」と考える。 ・可能であれば【指標2】は、テレビ観戦ではないことが指標として示される方がよい。 	<p>【指標2】の名称を「スポーツ観戦機会」から「スポーツの現地観戦割合」へと変更する。 ※令和3年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」の文言</p>	工藤委員
3	目標1 指標3	<ul style="list-style-type: none"> ・【指標3】の「スポーツボランティアの実施状況」について、「率」が出ているのであれば、「率」という言葉を使用してもよい。 	<p>【指標3】の名称を「スポーツボランティアの実施状況」から「スポーツに関するボランティアに参加した割合」へと変更する。 ※令和3年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」の文言</p>	工藤委員
4	目標1 指標5	<ul style="list-style-type: none"> ・【指標5】パラスポーツの推進「彩の国ふれあいピックの参加者数」は、ある程度限定された方々だけの数値である。 ・限定された方々だけではなく、より多くの障害者のスポーツがある。他の案も検討すべき。 	<p>次の理由から、「彩の国ふれあいピックの参加者数」を指標とした い。 「彩の国ふれあいピック」は、 ・全国大会の選考を兼ねた競技志向的なものから、重度の障害者やスポーツ経験のない人々も楽しめるようさまざまなスポーツを体験出来るイベントとして開催 ・スポーツを通じて障害者の体力維持、増進を図るとともに、障害者の社会参加推進に貢献 ・全県的な障害者スポーツ大会開催により、一層の障害者スポーツの普及を図るとともに、障害及び障害者に対する県民の理解を深めることが可能</p>	重田委員
5	目標1 施策3	目標1 施策3「女性、障害者、働く世代・子育て世代のスポーツ機会の充実」について、「女性」のスポーツ実施率が低い事実があるのであれば、データとして提示すべき。	資料2-2のとおり。 「男性」のスポーツ実施率と比較して、「女性」のスポーツ実施率が低いことがデータから読み取ることができるもの。	稲葉委員 工藤委員
6	目標1 施策4 取組①	「パラスポーツ」の定義を記載するか、全ての意味を包含する、誤解のない言葉である「障害者スポーツ」とするなど、言葉の統一感が欲しい。	<p>県スポーツ推進計画で使用する「パラスポーツ」の言葉の定義・趣旨を計画内に記載する。県スポーツ推進計画の上位計画である県5か年計画に準じ、「障害者スポーツ」を「パラスポーツ」と表記する。</p> <p>※「障害者スポーツ」について、県5か年計画では『東京2020パラリンピックを契機とした障害者スポーツへの関心の高まりを背景に、テレビや新聞等では「パラスポーツ」の名称が使われており、県民にも浸透し日常化してきている。また、日本障がい者スポーツ協会は、令和3年に日本パラスポーツ協会に名称変更した。こうした状況を踏まえ、「パラスポーツ」の名称を明記すべきである。』との理由から、「パラスポーツ」と表記している。</p>	重田委員 工藤委員

【参考】女性のスポーツ実施率

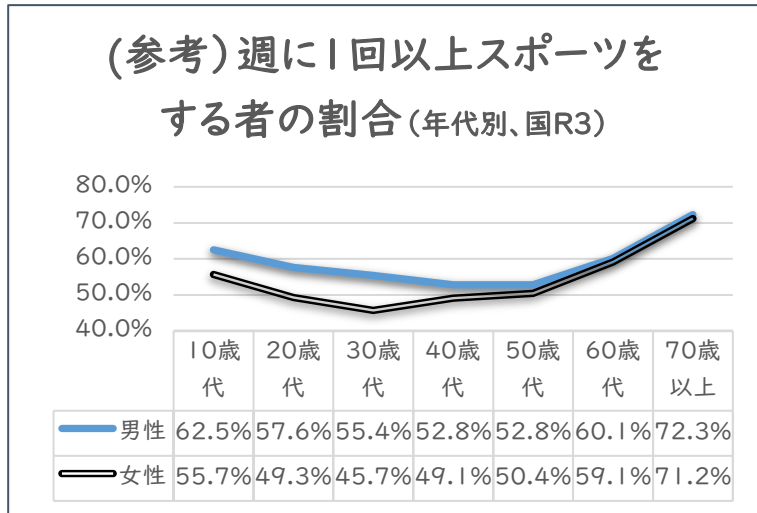
資料2-2



・県調査(令和2年度、令和3年度)、国調査(令和3年度)とも、女性のスポーツ実施率は男性と比較して低い状況。

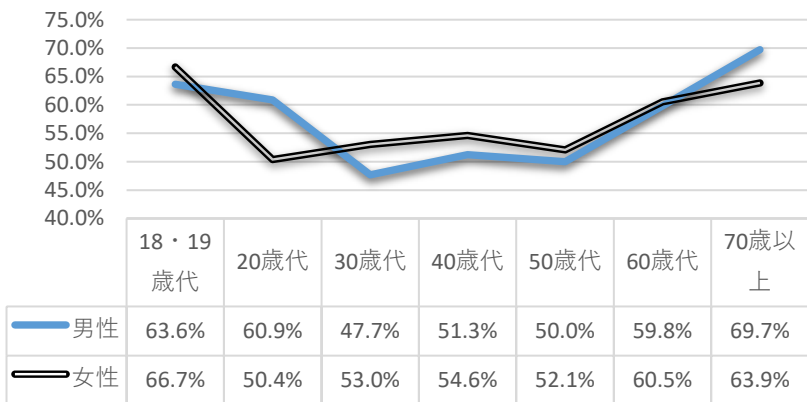


・女性のスポーツ実施率が男性よりも高くなる年代もある。

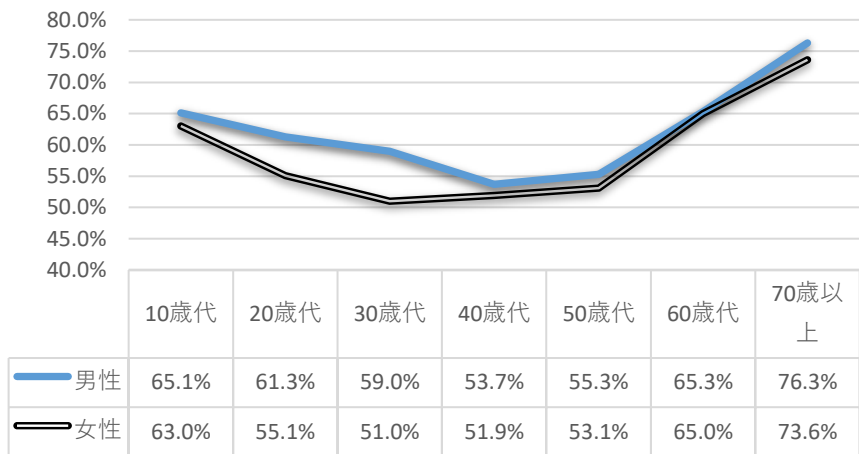


出典 埼玉県・埼玉県政世論調査
スポーツ庁・スポーツの実施状況等に関する世論調査

週1以上スポーツ実施率（年代別、県 R2）



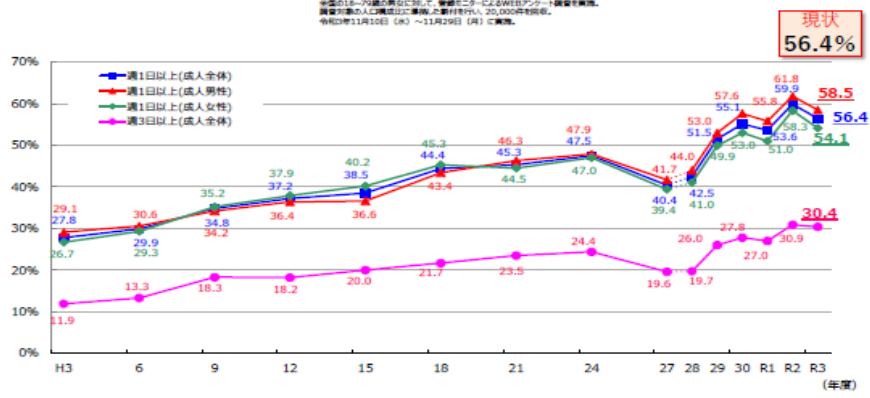
週1以上スポーツ実施率（国、R2）



成人のスポーツ実施率の推移

・第2期スポーツ基本計画（平成29年3月）では、成人の週1日以上の実施率を65%程度、週3日以上を30%程度とする目標を掲げている。
 ・令和3年度の成人の週1日以上の実施率は56.4%となり、令和2年度の59.9%が3.5ポイント減。週3日以上は30.4%となり、令和2年度の30.9%から0.5ポイント減。

全国の18～74歳の男女に對し、年齢別・性別によるWEBアンケート調査を実施。調査対象の人口は調査日に集計より約1億7千万人、20,000世帯程度。令和2年11月10日（水）～11月29日（水）で実施。



基本理念

目標

施策

取組

1 スポーツでつくる

魅力あふれる埼玉

■目標 1
誰もがスポーツに関わり親しめる機会の創出

- 2 【指標1】 スポーツ実施率
・スポーツを週1回以上行う成人の県民の割合 65.0%以上
- 3 【指標2】 スポーツ観戦機会
・過去1年間に県内で行われたスポーツ大会やスポーツの試合を実際に会場で観戦する機会があった県民の割合 50.0%以上
- 【指標3】 スポーツボランティアの実施状況
・スポーツイベントやスポーツの指導への協力等、スポーツに関するボランティア活動を行っている県民の割合 10.0%以上
- 【指標4】 子供のスポーツ意欲【目標値変更】
・中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思う県内中学2年生の割合 85.0%以上(80.0%から変更)
- 新【指標5】 パラスポーツの推進
・彩の国ふれあいピックの参加者数 R1 3,847人(春、秋、球技大会)

1 多様なスポーツの機会の創出

- ①スポーツムーブメントの創出
- ②スポーツ参画人口の拡大を支えるスポーツ人材の育成
- 新③多彩なイベント開催
- ④身近でスポーツに親しめる場の充実
- 新⑤スポーツに関する情報発信の強化
- 新⑥多様な主体との連携

2 子供・若者のスポーツ活動の充実

- ①学校体育の充実
- ②持続可能な運動部活動の充実と環境整備
- ③地域におけるスポーツ活動の充実

新 3 女性、障害者、働く世代・子育て世代のスポーツ機会の充実

- 新①ライフスタイル・ライフステージに応じたスポーツの機会の提供促進
- 新②女性のライフステージに応じたスポーツの機会の提供促進
- 新③障害者のニーズに応じたスポーツの機会の提供促進

新 4 スポーツによる共生社会の実現

- 6 ①パラスポーツの推進
- 新②スポーツによる女性の活躍促進
- 新③スポーツによる外国人との交流
- 新④高齢者がスポーツ・レクリエーションに気軽に参加できる場や機会の充実

■目標 2
世界に羽ばたくトップアスリートの輩出

- 【指標6】 アスリートの活躍(国内)
・国民体育大会における男女総合成績(天皇杯) 3位以上
- 【指標7】 アスリートの活躍(国際)
・国際大会における埼玉県ゆかりの選手8位以上 500人以上

5 アスリートの競技力向上

- ①トップアスリート(パラアスリート含む)の発掘、育成、支援
- ②トップチーム・トップアスリートとの連携強化
- 新③スポーツ科学による支援
- ④屋内50m水泳場及びスポーツ科学拠点施設の設置検討・推進

新 6 スポーツにおける安心・安全の確保
スポーツインテグリティの確保

- 新①スポーツ団体のガバナンス強化・コンプライアンスの徹底
- 新②スポーツにおけるハラスメントの防止
- 新③スポーツ事故・スポーツ障害の防止

■目標 3
社会におけるスポーツの力の発揮

- 新【指標8】 トップチーム・トップアスリートとの連携
・トップチームやトップアスリートと県との連携事業数

7 スポーツを通じた地域の活性化

- 新①スポーツを通じた魅力ある地域づくり
- 新②トップチーム・トップアスリートと地域との連携促進
- 新③スポーツ分野におけるDXの推進
- ④スポーツの成長産業化

新 8 スポーツによる社会課題の解決

- 新①スポーツによる健康増進・健康長寿社会の実現
- 新②スポーツによる多様な交流の促進
- 新③青少年の健全育成